

上河内地域学校園（上河内東小学校・上河内西小学校・上河内中央小学校・上河内中学校）

1 研究テーマ

学ぶ意欲を高め、主体的に生き生きと学ぶゆずっ子の育成

～基礎学力の定着を図り、自分の考えを伝え合う活動を通して～



2 研究内容

上河内東小学校

☆会話科を通じたコミュニケーション能力の育成

① 百人一首を音読することにより、和歌のリズムや古語に親しむなど、伝統的な美しい日本語の響きとリズムを体感する。

全学年がそれぞれ工夫しながら百人一首の練習を進める中で、日本語の表現の豊かさに気付くようになった。オープンスクール時には、全校生が声を合わせて保護者や地域の人達の前で百人一首を発表した。

② 百人一首をグループで楽しみながら、進んでコミュニケーションを図ろうとする意欲を高める。

百人一首をゲームとして楽しむために、発達段階に応じたルールを作成した。グループの仲間との会話を通してコミュニケーションをとることの大切さを学ぶことができた。



【全校生で発表】



【百人一首を楽しむ2年生】

上河内西小学校

☆科学的に考え、生き生きと学習に取り組む児童の育成

① 体験活動や操作活動を取り入れた学習

【3年 電気の通り道】

電気を通す物と通さない物の実験では、調べてみたい物を自由に準備させた。児童の主体的な活動につながった。



【6年 てこの規則性】

てこの規則性が身近な道具にどう生かされているのか、略図に表しながら考えた。道具のよさに気付くことができた。



② 予想や仮説を立て、検証し、結果を考察する学習

【4年 空気と水の性質】

既習事項やこれまでの経験を生かし、根拠のある予想を立てることができた。空気と水のイメージ図を描き、話し合いながら課題を考察できた。



【5年 振り子の運動】

仮説を検証するための実験計画を立てた。条件をそろえておくことの大切さに気付くことができた。



上河内中央小学校

☆主体的に学び、自分の考えを進んで表現できる子どもの育成

【実践例① 第2学年生活科「みんなのすてきをとどけよう」】

学校みんなのためになる活動を「あつたかやさん」と名付け、児童の自由な発想を大切に実践・体験させた。児童は生き生きと学習に取り組むよりよい活動にするための工夫をするなど、「主体的に学ぶ」姿が見られた。また、発表のしかたを工夫し、分かりやすく表現しようとする意欲が高まった。【「おもしろやさん」の活動】



【実践例② 第3学年総合「上河内のじまんをPRしよう」】

上河内地域のよさを他地域の児童に伝える学習活動を展開した。発表時には、一人一人がはきはきと大きな声で、テーマに沿って調べた内容を発表し、相手にしっかりと伝えることができた。また、他のグループの発表を目的意識をもってしっかりと聞くことができ、



【「梵天祭」グループの発表】 聞く力が高まった。

上河内中学校

☆校内授業研究会の充実による授業力の向上

昨年度に続き「表現力を高め、自分の考えを伝え合う授業」を研究テーマとし、校内授業研究会を実施した。

① 要請訪問の実施と授業研究会の工夫

2年生の国語の授業を全職員で参観し、授業研究会を行った。教科は違っても、各々の教科において言語活動を充実させる工夫や課題などについての話し合いを深めた。



② 一人一授業の公開

生徒のコミュニケーション能力を高めるため、話し合い活動を意図的に設定し、自分の意見や考えを相手に分かりやすく伝え合うことをねらいとして、授業を展開した。ねらいに迫る発問や生徒への指示の出し方、学年に応じたアプローチの仕方など自分の授業改善に生かせることを学んだ。



3 成果と課題

課題を解決するために必要な実験、体験を重視したグループでの探究活動、グループの仲間と楽しむ百人一首など、話し合い活動を、意図的に設定することにより、子どもたちが意欲的に学習に取り組む姿が見られた。グループ学習において、意見発表や情報交換などの言語活動を取り入れることにより、多様な考え方が育ち、思考の深まりも見られた。発問や指示の出し方だけでなく、イメージ図やキーワードを示すなど発達段階に応じたアプローチの工夫により、自分の意見や考えをまとめることや円滑な話し合いにつながった。

地域学校園で共通した学習のルールを作り、系統性をもたせた家庭学習の進め方について話し合った。しかし、学習に対する意欲や場に応じた話し方など課題も多い。思考と表現の一体化を図る手立てなど新たな課題も見えてきた。今後も自分の考えを伝え合う活動を取り入れながら、学びへの主体性を身に付け基礎学力の定着を図れるように研究を継続していきたい。